

2022年5月16日

2022年3月期 決算IR説明会 質疑応答概要

株式会社メイテック

1. 日 時 2022年5月12日（木）16:00~16:40
2. 場 所 東京本社7F カンファレンスルームとオンライン会議の併用
3. 質 疑 応 答

質問 2023年3月期の計画は、コロナ禍の前の水準に近く、過去と比較しても水準が上回っていると思います。ただし、メイテックフィルダーズの稼働率はコロナ禍前の水準には戻らないようです。それにもかかわらず、計画の営業利益率が達成可能と判断された理由をご説明ください。

回答 コロナ禍の前、稼働率は98%以上の高い水準でした。しかし、エンジニアのキャリア形成を行う観点では、高い稼働率が良いかという点、必ずしも良いとは言えません。市場ニーズに沿って、エンジニアのキャリアを形成していくためにジョブローテーションを推進しています。また、契約終了後から次の新たな契約までの間に、研修やリフレッシュ休暇取得は有効です。それ以外にも、転勤を伴う異動には時間が必要となりますし、新入社員（新卒・中途）に対して研修を行う必要もあります。こうした期間は稼働率低下の要因となりますので、かねてから95%を一定の目安として考えています。

なお、メイテックフィルダーズは95%を超える高い稼働率に届いていませんが、コロナ禍の前よりも積極的に採用すると、稼働率を高める、の両輪で行っており、現在はその過渡期である、とご理解賜れればと思っております。

そして、2023年3月期の業績予想の達成は、決して容易いものではありません。以前の業績成長率は、メイテックで+2~3%、メイテックフィルダーズで+10%前後、だったので、今回の業績予想は、それを超えた非常に高い水準です。

しかしながら、現中計で取り組んでいる「The Transformation」、市場ニーズがますます変わっていく状況におきまして、絶えず、メイテックグループをお客さまに選んでいただける状態、お客さまを通じて世の中に貢献するためにも、計画を達成し持続的に成長できるよう、事業モデルをブラッシュアップし、高めていくことに取り組んでいく所存です。

質問 2023年3月期の計画で営業利益率の改善は、粗利益率の改善と思います。この主な要因は、単価の上昇を見込んでいるのでしょうか。特に、メイテックフィルダーズでは、去年の実績を見ても、単価の低下が発生しているようで、これは若年層のエンジニア社員の増加、社員の平均年齢が若干低下、が主な要因というお話を以前にお伺したと思います。こうした単価の低下と稼働率も平均程度という前提で、粗利益率が改善する、というところをご説明ください。

回答 まず、稼働率を高めることで、粗利益は高まります。なお、エンジニア社員に対する賃金は、業績に伴い還元するという考え方は従前から変わっておりません。

そして、営業利益率を高めるためには、先ほど説明した粗利益の改善ということが1つ、生産性を高めながら、全体を見渡して販管費の抑制を行っていきます。メイテックは、その上で営業利益率の目標15%を目指していきます。

以上